



学校だより 中央小学校 令和元年度 12月号

一日でも早い復興をお祈りします。



防災訓練の様子です

今回の台風・大雨で被害に遭われた方の一日も早い復旧復興をお祈りいたします。

自然が相手はどうしようもないといえ、どうしようもないのかもしれませんが、万が一の時の備えはしておきたいですね。10月27日(日)の防災訓練の時に、たまたまお目にかかった方とのお話で、昔岩出でも紀ノ川や根来川が氾濫したことがあると伺いました。水

害は決して人ごとではないと改めて考えさせられました。防災訓練にご参加いただいた皆さん、ご苦労様でした。

避難訓練よくできました

11月1日(金)に地震を想定しての避難訓練を行いました。地震発生後、放送で運動場への避難指示が流れてから見事5分以内に全員無事を確認することができました。

この避難訓練が必要なかったというような未来であったら、それが一番だと思うのですが、自然災害はいつ起こるかわかりません。震災のあった東北地方に『てんでんこ』という言葉があります。「津波が来たら、取る物も取り敢えず、肉親にも構わずに、各自てんでんばらばらに一人で高台へと逃げろ」「自分の命は自分で守れ」という意味だそうです。そしてそれが家族全員が生き延びる知恵だそうです。そんなことが起きないように祈りましょう。そして、もし災害が起きたらどうしようと家族で決めておきましょう。

授業参観ご苦労様でした

11月7日(木)に行われた授業参観・音楽発表会・教育講演会に多数ご参加いただきありがとうございました。

授業や発表会では多くのご家族の皆さんに見守られ、子供たちは自分でできる精一杯の力を出してがんばっていました。

「先生、今日ねおうちの人が来てくれるんやで」「そら楽しみやな」「うんっ」と言っていて、うれしそうに体育館へ向かっていった姿がとても幸せそうでした。いつの時代も同じですね。子供は誰よりも親に自分のがんばっているところを見てほしい。褒めてほしいものです。

みやにしたつやさんの本の一節に、『ぼくはお母さんが大好きだけど、お母さんは「早くしなさい」「ぐずぐずしないで」「何回言えばわかるの」って、ぼくをしかってばかり。優しくしてくれたら、もっと好きなのに。』という一文があります。お母さんだけでなくお父さんも同じです。子供たちにとって、どんなに叱られてもお母さんお父さんが大好きなのですね。こんなに無償の愛情があるのは親子だからですね。

運営協議会でこんなことを話し合いました

今年から本校でもコミュニティースクール活動の中心として学校運営協議会が発足しました。地域の方々には「小学校の子供たちのためにこんなことをしてあげたい」学校は「子供たちのために、こんなことを協力してほしい」というそれぞれの子供たちへの思いが、つながっていませんでした。そこで、運営協議会が中心となってそれらをつないでいこうということになりました。あらためてボランティア登録の募集を行いますので、振るってのご参加をお待ちしています。もちろん保護者の方以外でもオッケーです。



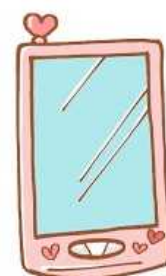
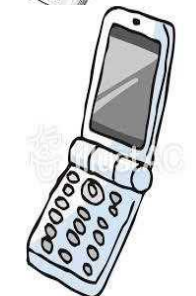
あせらず いい加減に

最近聞いた話です。

95歳で助産師を引退された方に、「最近のお母さん方に伝えたいことはありませんか？」という問いに「最近のお母さんは自分の子を立派に育てようと思いきり過ぎて、焦ってしまっているように感じます」と答えられたそうです。その言葉を聞いて私自身ドキッとしました。我が子が小学生の時、自分の子を立派に育てようとして一生懸命でした。その結果、子供にとってその時期が一番私を嫌ってしんどかった時期だったと、大人になってから話してくれました。一生懸命はいいことですが、もっといい加減になった方が、いい子に育つのかもかもしれませんね。みなさんここいらで肩の力を一度抜いてみますか？



携帯とケータイとスマホ



先月大阪で児童誘拐監禁事件があったことは記憶に新しいことと思います。そこから今マスコミでは『SNSと子供』をテーマにした特集がよく流れています。どうも私たち大人と子供とではSNSに対する考えが全然違うように思います。子供たちにとって、インターネットの世界が私たちが想像しているより、もっともっと近いところにあるようです。

SNS関係で犯罪に巻き込まれた子供たちのほとんどの保護者は、「うちの子は大丈夫やろ」という考えで、フィルターがかかっていなかったようです。

親の価値観で判断するのではなく、世代は変わっているのです。何らかの理由でスマホを持たせるのなら、ルールを決めて(例えば、パスワードは家族で秘密にしない。親がスマホを見ても怒らないなど)フィルターをかけておきましょう。